



COLOR US PROJECT



公益財団法人福島県国際交流協会/Fukushima International Association

震災そして復興の10年…

これからの10年で「ふくしま」に必要なこと

「カラプロに参加している皆さんは震災当時のことを覚えていますか？あの時、自分は、家族は、友達は、そして社会は…皆さんは復興とともに歩んでいます。これからも皆さんと一緒に時は流れていきます。これからの10年をみんなで考えてみましょう。「ふくしま」のために、自分のために。当日は天野先生とのディスカッションも行います。

日時： 10月15日(土)／12:45開場 13:00-15:40

場所： 福島大学・共生システム理工学類後援募金記念棟 会議室

講師： 天野和彦先生(福島大学地域未来デザインセンター)

八島妃彩さん(浪江まち物語つたえ隊)

参加費： 無料(カラプロ生)／500円(一般)

- 大学構内に駐車することはできますが、ご来場は公共交通機関を推奨しております。
- 参加ご希望の方は下記のメールにてお名前、連絡先を明記の上送信ください。
- 講演中の録音、録画はご遠慮ください。

主催： (公財)福島県国際交流協会・人材育成プロジェクト

福島市舟場町2-1福島県庁舟場町分館2F 024-524-1315

color_us_pro@worldvillage.org 担当:千葉 or 外山

後援： 国立大学法人 福島大学

プロフィール&略歴

天野 和彦

福島県会津若松市出身 1959年4月 生まれ

福島大学大学院 地域政策科学研究科 修了

勤務先・役職名 一般社団法人 ふくしま連携復興センター 代表理事

福島大学 地域未来デザインセンター客員教授（災害社会学）



特別支援学校の教員として15年。その後、県教育委員会や県男女共生センターなどで社会教育の仕事を15年。2011年3月11日の東日本大震災、東京電力福島第一原発事故に際し、約2,500人の被災者を受け入れ、福島県内最大規模だった「ビッグパレットふくしま避難所」の県庁運営支援チーム責任者として運営に携わる。現在、福島大学地域未来デザインセンター客員教授、一般社団法人ふくしま連携復興センター代表理事として被災者の生活再建や震災関連死などの調査研究を行うとともに、コミュニティ形成のための支援・研究活動を行っている。防災教育教材「さすけなぶる」の開発リーダー。

主な活動歴

・学会

日本災害復興学会、日本社会教育学会、日本教育学会、日本公民館学会 ・委員等

避難所における良好な生活環境の確保に関する検討会委員(内閣府)2012

避難所における良好な生活環境の確保に関する検討会「福祉避難所」WG 委員(内閣府)2015

・主な著書等

生きている生きてゆくービッグパレットふくしま避難所記 2011

福島大学の支援知をもとにしたテキスト災害復興支援学 2014

『福島復興学』八潮社(2018年刊)『福島復興学Ⅱ』八潮社(2021年3月刊) など

浪江まち物語つたえ隊

八島妃彩(語り部)

浪江町生まれ。東日本大震災に伴う原発事故により避難を余儀なくされ、山形県など6ヶ所ほど転居する。桑折町仮設住宅時代に紙芝居と出逢い、2012年「浪江まち物語つたえ隊」を結成。広島のパランティア団体から作って頂いた浪江町の昔話と震災後の物語を携えて、ふるさとの歴史や東日本大震災、原発事故の記憶を語り継ぐ活動をしています。

カラプロ（人材育成プログラム）

言語・文化・価値観の違いを乗り越えて、国の違いに阻まれることなく最大限のパフォーマンスを発揮できる人材育成に取り組んでいます。VUCAの時代を生き抜く力を身に付けることも重視し、福島県内の学生(高校生、大学生、短大生、専門学校生)を対象に人材育成コースを開催しています。

このプログラムは自らが考え、掲げた目標に到達するためのツールを探し、努力していくという設定になっております。学生が「型にはまったものを学ぶ」のではなく、様々な体験を経て、知識を蓄え、「何が自分にとって必要なのか？」を考え、時には取捨選択をし、成長していく、そのような斬新なプログラムとなっています。



**We are
"Color Us Project"
member!**